

「文芸倶楽部」小説総目録  
その二（明治31年〜32年）

山根賢吉編

第四卷第一編（明治31年1月1日発行）

舟	橋	川	上	眉	山	1	16
一夜	譚	広	津	柳	浪	17	47
ばけ	柳	小	杉	天	外	47	86
夕霧伊佐衛門（脚本）		渡	辺	霞	亭	87	164

（注）「東西文豪」欄に、長谷川天溪の「セルワンテス」がある。

第四卷第三編（明治31年3月10日発行）

したゆく	水	紫	琴	女	史	88	128	
祈	麟	宵	軒	居	士	128	139	
袈裟	御前	遅	塚	麗	水	1	45	
動物電気（喜劇）		根	本	破	笠	46	71	
片恋	源氏	山	岸	荷	葉	72	104	
うしろ	髪	北	田	う	すら	104	127	
渡	守	太	田	玉	茗	127	136	
走馬	燈	嗟	峨	の	や	主人	137	147

（注）「走馬燈」は長詩の類。「東西文豪」欄に、大橋乙羽の「松詩軒西鶴」及び上村左川の「セキスビヤ」がある。

第四卷第二編（明治31年2月10日発行）

二日もの	か	たり	幸	田	露	伴	1	14	
恋の	寂	覚	二	十	三	階	堂	14	51
しの	め		佐	藤	迷	羊	51	87	

第四卷第四編 臨時増刊 千紫万紅春の巻 (明治31年3月23日発行)

(注)「都々逸」「狂句」「戯文」「和歌」「新体詩」「時報」より成り、小説はない。

「雑録」欄に

筆のすさび 故樋口一葉 252頁  
 がある。(これについては、別稿「文芸倶楽部」所載「筆のすさび」について「参照」)

第四卷第五編 (明治31年4月10日発行)

箕 摺 草 紙	泉 鏡 花	1 頁	48 頁
鉄 道 心 中	井 上 笠 園	48 頁	69 頁
高 松 城	猪 波 晚 花	70 頁	88 頁
あ ば ら 家	桐 生 悠 々	89 頁	100 頁
女 ぎ ら ひ	松 居 松 葉	100 頁	122 頁
怖 し 女 人 鱈	幸 堂 得 知	122 頁	125 頁

(注)「箕摺草紙」は内題には「笈する草紙」とあり、「女ぎらひ」の作者名は、内題には「エミルソラ作松居松葉」とある。「東西文豪」欄に、小松蘭雪の「近松巢林子」及び長谷川天溪

の「チッケンス」がある。

第四卷第六編 (明治31年5月10日発行)

島 勘 左 衛 門	塚 原 洪 柿 園	1 頁	20 頁
外 国 人	故 替 田 緑 堂	20 頁	88 頁
南 蛮 鉄	蒲 原 有 明	88 頁	119 頁
出 来 心	山 田 英 妙	120 頁	134 頁

(注)「外国人」の作者名は、内題には「緑堂野史」とある。「東西文豪」欄には、三宅背軒の「平賀鳩溪」及び奥村不染の「モリエール」がある。

第四卷第七編 (明治31年6月10日発行)

遣 言 状	渡 辺 霞 亭	1 頁	54 頁
思 ふ ど ち	田 山 花 袋	54 頁	71 頁
二 軒 長 屋	武 田 桜 桃	71 頁	93 頁
名 香 爐	黒 田 天 外	93 頁	113 頁
藻 く づ	中 谷 無 涯	113 頁	129 頁

(注)「東西文豪」欄に、岸上質軒の「山東庵京伝」及び巖谷小波の「ゲエテ」がある。「雑録」欄に、緑雨の「大通至極伝」がある。

第四卷第八編 臨時増刊 旅之友 (明治31年7月5日発行)

「旅の葉」「旅行の趣味」「山容水態」「行雲流水」(詩・新  
 体詩・和歌・俳句)より成り、小説はないが、その主なも  
 のをあげると(該当ページは省略)、

旅の心得	幸田露伴
「旅の葉」	
旅行の趣味	徳富蘇峰君談
家族的旅行	幸田露伴君談
北海道土産	黒岩涙香君談
旅中の弊風	福地桜痴君談
「山容水態」	
客舎雑筆	幸田露伴
月ヶ瀬紀行	饗庭篁村
笠置山	大橋乙羽
遊寧楽記	遅塚麗水
山分衣(芳野紀行)	西村天囚
光瀧寺紀行(河内)	渡辺霞亭
遊筑紫北辺記	遅塚麗水

きま 筆 日記  
 汐なれ衣(鎌倉、江の島  
 退子、浦賀紀行)  
 旅の家苞(木曾、犀川  
 普光寺)  
 幸田露伴

川中島  
 大洗紀行  
 日光山  
 平泉の廃趾  
 うつしま日記(奥羽紀行)  
 東北遊記  
 塩原越  
 南会津  
 若松城  
 柳津  
 盤梯山  
 ふる郷  
 北越紀行  
 憶曾遊  
 幸田露伴

第四卷第九編 (明治31年7月10日発行)

大橋乙羽  
 石黒忠愍  
 田山花袋  
 大橋乙羽  
 幸田露伴  
 大橋乙羽  
 塩原越  
 南会津  
 若松城  
 柳津  
 盤梯山  
 ふる郷  
 北越紀行  
 憶曾遊  
 幸田露伴

親こ、ろ 二葉亭四迷 1 1 32

今様庄世男 内田不知庵 32 52

会同文 藤本藤陰 52 70

卯花月 若葉女史 71 82

願酒 根本吐芳 82 110

發月 三宅青軒 110 129

(注)「今様庄世男」は、内題には「今様厭世男」とあり、「卯花月」は目録にはない。「東西文豪」欄には、小松蘭雪の「式亭三馬」及び鶴の里人の「愛国詩人テオドル・キヨル子ル」がある。

第四卷第十編(明治31年8月10日発行)

寢覚 川上眉山 1 45

劍俠伝 嵯峨の屋主人 45 83

夫さだめ(喜劇) 榎本破笠 83 100

雪のあした 馬場孤蝶 100 106

やれ垣 佐藤迷羊 105 127

二階の客 北田薄氷 128 146

(注)「東西文豪」欄に、上村左川の「バイロン」がある。

第四卷第十一編(明治31年9月10日発行)

扇の恨 福地桜痴 1 75

樹宝山 嵯峨の家 76 120

小説家 今野愚公 121 142

磯千鳥 山田美妙齋 143 154

(注)「扇の恨」は戯曲。「樹宝山」は、内題には題名の下に(劍俠伝後編)とある。「東西文豪」欄に、三宅青軒の「為永春水」がある。

第四卷第十二編 臨時増刊 千紫万紅秋之巻(明治31年10月3日発行)

嵐崎紅葉先生 幸田露伴先生 合選

短篇小説 甲 あけの空 翠野雨之助 2 7

乙 開運丸 金雨竹 8 13

丙 玩物小判 うなぎ男 13 20

賞外秀逸

地獄池 堺 無 絃 21 1/26  
 夕立物語 枯楊庵 生 26 1/34  
 千万八千 三浦 皆 夢 34 1/38  
 佳作

新黒衣魔伝 鬼木 紅 恋 38 1/42  
 喜 憂 耕 月 子 42 1/47  
 迷 の 雲 田 口 掬 汀 47 1/52  
 女 按 摩 大 迫 楓 山 53 1/58  
 (注)懸賞募集した短編小説の発表である。「玩物小判」は戯曲に近い。

第四卷第十三編(明治31年10月10日発行)  
 萩 の 庵 半 井 桃 水 1 1/32  
 あたり 闇 中 村 雪 後 33 1/61  
 わ か れ 国 木 田 独 歩 62 1/75  
 櫓 大 鼓 新 田 静 湾 76 1/91  
 比 翼 塚 太 田 玉 茗 92 1/95  
 前後 不 覚 小 栗 風 葉 96 1/148  
 (注)「あたり闇」は戯曲。「比翼塚」の作者名は、内題に

は「ボツカシイ作」とある。「東西文豪」欄には、奥村木染の「井クトル・ユーゴー」があり、「雑録」の中に、二三階堂の「豪傑倶楽部中」がある。

第四卷第十四編(明治31年11月10日発行)  
 泉 物 語 泉 鏡 花 1 1/69  
 無 音 鼓 樋 口 二 葉 70 1/81  
 金 髮 細 川 風 谷 82 1/107  
 玉 藻 田 村 松 魚 108 1/145  
 (注)「東西文豪」欄に、梅沢和軒の「ダンテ」がある。

第四卷第十五編 臨時増刊 花すゝき(明治31年11月25日発行)  
 斬 奸 福地桜癡居士 1 1/176  
 く され 緑 二 葉 亭 四 迷 177 1/260  
 雪夕 駅路 声 中 村 福 助 261 1/306  
 (注)「斬奸」は、内題には「斬奸「民人の為」」とある。「くされ緑」の作者名は、内題には「二葉亭四迷訳」とある。

第四卷第十六編（明治31年12月10日発行）

白 日 夢	後 藤 宙 外	1 1/2	55
無学の宰相 <small>（波野小説）</small>	帰 命 翁	56 1/2	88
女 秀 才	菊 の 屋 女 史	89 1/2	127
尽 未 来 際	奥 村 不 染	128 1/2	142
年 の 関 故	南 新 二	143 1/2	153

（注）「女秀才」の作者名は、内題には「菊の屋女史訳」とある。「東西文豪」欄に、田村松魚の「江島屋其碩」、「雑録」欄に、二十三階堂の「豪傑倶楽部」（十三編の続き）がある。

第五卷第一編（明治32年1月1日発行）

お ぼ ろ 夜	斎 藤 緑 雨	1 1/2	12
骨 ぬ す み	広 津 柳 浪	13 1/2	74
酒 袋	二 葉 亨 四 迷	75 1/2	126
椀 久 物 語	幸 田 露 伴	127 1/2	145

（注）「酒袋」の作者名は、内題には「二葉亨四迷訳」とある。

第五卷第二編 臨時増刊 講談摘（明治32年1月3日発行）

「譚談」「譚海」「雑録」より成り、小説はないが、目次のみ記すと次の通りである（該当ページは省略）。

（講談）			
滑 稽 義 士	三 遊 亭 円 遊		
実 事 譚 蘇 生	村 井 貞 吉		
播 州 め ぐ り	橋 家 円 喬		
水 戸 西 山 公	一 竜 斎 貞 山		
大 工 訴 訟	柳 川 小 さ ん		
盲 目 吉 兵 衛	松 林 伯 知		
清 正 仁 徳 録	神 田 伯 山		
塩 原 高 尾	桃 川 燕 林		
百 川	古 今 亭 今 輔		
栗 崎 道 清	桃 川 如 燕		
明 智 三 羽 鳥	伊 東 燕 尾		
お か め 団 子	麗 々 亭 柳 橋		
菅 源 助	松 林 伯 円		
政 談 月 の 鏡	三 遊 亭 円 朝		
（譚海）			
松 林 伯 円 経 歴 談			
	小 野 田 翠 雨		

(雜録)

新撰美人八景 大橋乙羽  
口上茶番 山岸荷葉

第五卷第三編 (明治32年2月10日発行)

五月	女坂	塚原	波柿園	1	64				
街	燈	紅柳	桑川	春	人	穂	作	65	75
浮	れ	蝶	長	田	秋	澗	76	107	
神	経	質	松	居	松	葉	108	140	
都	鳥	三	宅	荷	軒	141	158		

(注)「浮れ蝶」の作者名は、内題には「クレウキル女史著」とある。「諷海」欄に、鴨月生の「桜癡居士」がある。

第五卷第四編 (明治32年3月10日発行)

紫	被	布	広	津	柳	浪	1	67	
終	列	車	故	中	村	雪	後	68	90
鬼	念	仏	猪	波	晚	花	91	111	
富	岡	城	高	瀬	文	淵	112	122	
浮	舟	田	村	松	魚	123	143		

第五卷第五編 (明治32年4月10日発行)

か	た	鶉	内	田	不	知	庵	1	56
温	泉	場	佐	藤	迷	羊	57	75	
大	焦	熱	藤	本	夕	颯	76	116	
柿	の	実	田	山	花	袋	117	142	

第五卷第六編 臨時増刊 梨園之春 (明治32年4月18日発行)

桐	と	葵	市	川	団	十	郎	1	33				
花	見	時	節	人	武	士	尾	上	菊	五	郎	34	108
梅	模	様	形	見	小	袖	中	村	福	助	109	158	

(注)いずれも「脚本」である。

第五卷第七編 (明治32年5月10日発行)

富	士	山	三	宅	荷	軒	1	22				
心	の	と	が	二	十	三	階	堂	23	54		
鎌	倉	二	人	武	者	本	田	浜	太	郎	55	104
蓄	薇	莊	遅	塚	麗	水	106	148				

第五卷第八編 (明治32年6月10日発行)

み	だ	れ	髪	小	杉	天	外	1	73
---	---	---	---	---	---	---	---	---	----

静観寺 久保田小塊 74 ↓ 92  
まご、ろ 太田玉茗 93 ↓ 101

大懺悔 武田仰天子 102 ↓ 143  
(注)「まご、ろ」の作者名は、内題には「ボツカシオー作」  
とある。太田玉茗訳

第五卷第九編(明治32年7月1日発行)

船長の妻 江見水蔵 1 ↓ 33  
行路心 柳川春葉 34 ↓ 56  
米屋町俠客遠引 岡野紫水 57 ↓ 113  
納涼 三宅背軒 114 ↓ 121

(注)「米屋町俠客遠引」は「脚本」である。

第五卷第十編(明治32年8月1日発行)

雷そらごと 半井桃水 1 ↓ 32  
罪の果 嵯峨の舎 33 ↓ 64  
移民学 紫琴女史 65 ↓ 85  
名医 松居松葉 86 ↓ 118  
相思鳥 田村松魚 119 ↓ 129

第五卷第十一編 臨時増刊 第二講談摘(明治32年8月15日発行)

「講談」のみで、「小説」はないが、目次を示しておく  
(該当ページは省略)。

早野勘平 松林伯円  
無箏の女房 柳亭小燕枝  
越の海勇藏 真竜齋貞水  
王子の狐 三升亭小勝  
大久保五色の葛 桃川燕林  
ゆめ 橘家円喬  
二蓋笠 邑井貞吉  
大石東下り 柴田左煎  
狸の釜 柳亭左楽  
富士川合戦 一竜齋貞山  
火の用心 柳家小さん  
橋場の長吉 伊東燕尾  
浄行寺 柳亭燕路  
神崎与五郎 神田伯山  
柳生真如月 邑井一  
テレくテレ 三遊亭円遊



第五卷第十二編 (明治32年9月1日発行)

脱走兵	塚原	波柿園	1	43
梅もどり	福田	琴月	44	62
黒暗々	堺	枯川	63	83
夕あらし	藤本	夕颯	84	125
心の隈	馬場	孤蝶	126	137

(注)「心の隈」の作者名は、内題には「パールザック作  
馬場孤蝶重訳」とある。

第五卷第十三編 (明治32年10月1日発行)

曲	翠	三宅	青軒	1	44
春一	夜	生田	葵山	45	66
唐伯虎	虎	菊の屋	女史	67	84
薄衣	衣	広津	柳荷浪	84	117
狸々	怪	長田	秋涛	118	136

(注)「唐伯虎」は、内題には「水井荷風  
広津柳浪合作」となる。  
「薄衣」は、内題には「水井荷風  
広津柳浪合作」となっている。

第五卷第十四編 (明治32年11月1日発行)

二人やもめ	広津	柳浪	1	50
龍津瀬	田村	松魚	51	83
悪源太	松居	松葉	84	105
花園	徳田	秋声	106	138

(注)「悪源太」は、内題には「紫宸殿の雪  
石山寺の月」と角書があり、脚本である。

第五卷第十五編 臨時増刊 講談忠臣蔵 (明治32年11月15日発行)

「講談」「時事」のみで、「小説」はないが、目次を示しておく(該当ページは省略)。

(講談)

発端	松林	伯円
松の間の刃傷	錦城	齋一山
田村邸の切腹	松林	伯知
三番早打	宝井	馬琴
赤穂城大評定	桃川	貞実
山科の浪宅	一庵	齋貞山
南部阪雷の別	邑井	貞吉
義士勢揃へ	正流	齋南窓

吉良 邱 擊 入  
 泉 岳 寺 引 上  
 十八ヶ条 申 開  
 義 士 切 腹  
 (時事)  
 五 畿 七 道  
 大 橋 乙 羽  
 柴 田 薰  
 神 田 伯 山  
 真 竜 齋 貞 水  
 伊 藤 燕 尾

第五卷第十六編 (明治32年12月1日発行)

う	き	秋	田	山	花	袋	1	70
松	の	字	加	藤	眠	柳	71	86
我	家	嗟	峨	の	家		87	112
辻	斬	猪	波	晚	花		113	119
雪	女	遅	塚	麗	水		120	136

本目錄作成にあたっては、架蔵誌のほか、日本近代文学館・  
 天理図書館所蔵誌によった。なお前号所載(その一)の「第  
 三卷第十三編」は臨時増刊号と見なすべきで、表紙中央に  
 「蓋世海戦未来の夢」とあることを補足しておく。